

JAPIC NEWS

Contents

一般財団法人 日本医薬情報センター **JAPIC**
Japan Pharmaceutical Information Center

巻頭言

「地域医療の変化に対応する、これからの薬局」

慶應義塾大学 薬学部 社会薬学講座 福島 紀子 …… 2

インフォメーション

発行しました!!

「JAPIC医療用・一般用医薬品集インストール版」2013年4月版 …… 4

「JAPIC OTC医薬品CD-ROM」2013年4月版 …… 4

JAPIC Guide 2013 …… 4

2013年版「医薬品製造承認品目一覧」 …… 5

承認品目全データの提供 …… 5

平成25年度JAPICユーザ会開催案内 …… 5

トピックス

「理事会」「評議員会」の概要報告 …… 6

平成25年度事業計画について …… 7

JAPICサービスの紹介

医薬品等の適正使用に役立つ品質・有効性・安全性に関する情報提供サービス …… 8

コラム

くすりの散歩道 No.68 「緑茶の予防医学」

(一財)日本医薬情報センター 添付文書情報担当 深澤 ちさと …… 10

JAPIC新入職員紹介 …… 11

外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より(抜粋) …… 14

■図書館だよりNo.275 ■情報提供一覧 …… 15

5

2013 | No.349

地域医療の変化に対応する、 これからの薬局

慶應義塾大学 薬学部 社会薬学講座
福島 紀子 (Fukushima Noriko)



◆ 少子高齢化時代を迎えての薬局・薬剤師の役割の変化

近年の少子高齢化社会の中で、家族の支援を受けづら
い状態になっている高齢者や、介護の必要な家庭などに
対する社会的な対策が急務となっている。これは地方に
限ったことではなく、「都市型の過疎」にも福祉対策の
目を向ける必要があるが、全般的に福祉関係の準備の
遅れや人材不足が問題になっている。

同様の視点で医療環境についてみると、医師や看護
師が不足する中で、医療関係者の多くは病院・診療所
中心の活動になることが予想され、「来院できる患者」
以外の患者や患者予備群に対して、高額医療の対象に
ならない予防的支援等の社会的な対応課題がクローズ
アップされている。

こうした社会的課題の解決策の一つとして、調剤を実
施する薬局は「医療提供施設」と医療法に明記されてい
ることもあり、国の施策においても在宅医療への参画や
医薬品使用の安全管理など薬局・薬剤師に期待される
社会的な働きは大きくなっている。

国の制度が違うことを前提にしてではあるが、他国の
事例をみると、2008年4月に英国保健相は「薬局は処方
せん薬を供給するだけの場所ではなく、地域住民の軽度
の疾患を扱い、病気のスクリーニング、ヘルスアドバイス
が可能な薬剤師が配置された場所である。99%の国民
が住むところから20分以内の場所に薬局があり、薬局を
活用することで国民は利益を得ることができる」とした
白書を発表している。役割と能力や規模、制度の変更な
どの社会的な課題を克服する必要はあるが、日本におい
てもこのような役割の担い手として薬局を位置づけるこ
との効果は大きい。

◆ 薬剤師にも求められるセルフメディケーションのサ ポート

2012年7月、厚生労働省は、健康日本21（第2次）を公
表した。この中では、国民の健康の増進の総合的な推進
を図ることを目的とし、健康寿命の延伸と健康格差の縮
小や生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底などの
基本方針が挙げられている。これらの方針を受けて、こ
れらの地域の健康課題を解決するための推進体制とし
て市町村保健センター、保健所、医療保険者、医療機関
等と並んで薬局が明記され、健康増進を担う人材として
薬剤師があげられている。このことは、薬局・薬剤師が
地域医療の中での健康づくりの担い手として期待されて
いることを示している。医療を受ける前の予防活動やセ
ルフメディケーションの考え方が推進され、薬剤師の一
般用医薬品に対する関わりも多くなることが予想される。

現在、日本全国には約55,000の薬局があり、約14万5
千人の薬剤師が勤務している。これらの薬局・薬剤師の
機能を十分に有効利用することが、今後の地域医療推
進のための鍵となる。

◆ 薬剤師が備えておくべき新たな知識や技術と、教育 の取り組み

しかし、現役の薬剤師は高齢者支援に必要な知識や
技術、保健相談などについて大学で十分な教育を受けて
いない。また多職種連携についても、薬局に多くのこと
が多く、連携を取りづらいうちにあるといった課題がある。

これらの課題を解決するためにも、6年制教育の中で、
在宅医療を含め、地域の健康を担う薬局のあり方につい

での教育の充実が求められる。そこで、大学で実施している、地域活動を含めた教育の取組について述べてみたい。

介護施設での活動を通して学ぶ高齢者支援の取り組み

本プロジェクトは、近隣の介護施設で活動しながら高齢者の特徴などを学ぶプログラムで、2006年度から開始、0.5単位の自由科目としてカリキュラムに組んでいる。対象は1から6年生で、低学年では、入所者とのコミュニケーションや傾聴を学び、学年があがるにつれ、薬学的知識を持ち、薬物動態や病態を学ぶことができるため、参加学生の中には、6年間継続して参加する学生もいる。

現役薬剤師とのコラボレーションを経た、研修制度の確立

介護施設での調査や、学部生の介護施設活動などを通して2008年に老年薬学の科目内容を完成させ、学生以外の現役薬剤師を対象とする研修に拡大し「薬剤師として身に付けておきたい～高齢者支援の実践に必要な知識と技術～」の60時間のカリキュラムを試行した。受講した薬剤師による教育内容の評価を受けて改良を続け、6年制カリキュラムの中に「老年薬学」として組み入れた。薬剤師向けの研修会も、2008年より現在まで毎年定期的実施している。

これからの薬剤師に求められる、新たな知識や技術の重要性を実感する

実際に施設や在宅に出向き、高齢者や障害者など社会的弱者に接することで、入院患者と違って薬の管理ができていない状況や介護施設での薬の使用について不安や疑問を持っている介護士や看護師が多いことを目の当たりにする。薬の専門家である薬剤師は、処方せんを基に調剤をするという基本的な専門機能に加えて、医療福祉チームとの連携や、かかりつけ薬局、訪問薬剤管理指導など、より積極的な社会的機能を果たすべく、本格的な活動に結びつける必要性を学ぶ。

セルフメディケーション支援や保健相談ができる薬剤師養成

本プロジェクトは、地域住民、在勤者を対象とした健康づくりプログラムで2003年より開始し、毎月1回継続して実施している。港区の後援をうけ広報誌で募集し参加

者は高齢者も多く、地域の健康増進に貢献している。このプログラムも、現在は自由単位として体験学習プログラムの1つとなっている。参加学生を募集し、地域の住民とのふれあいを体験し、また、健康測定の補助を行うことで、将来の薬剤師として健康相談に応じられる人材育成に繋げている。

◆「薬と社会」にまつわる「相互の変化と影響」の対応モデルの構築

以上述べてきたことは、社会薬学的思考を用いて構築してきたことである。最近では「薬学と社会」に関する講座が新設される大学もあり、社会薬学が重要視されてきている。社会薬学は社会の要求が前提となって動き始めた学問であり、薬学と社会の関わり、特に、薬が社会に与える影響、社会の変化が薬に与える要求の変化などを過去の事例、歴史的経過、現在の動向を調査研究することで、これからあるべき薬局・薬剤師の機能として必要なことを検討する。

当然のことながら、薬の専門家として「薬学の基礎知識や技術を理解・習得」していることが必要不可欠であるが、薬剤師として、「変化する社会に貢献し続ける」ためには、医療を取り巻く制度・しくみの理解や経済的視点等を持つことも重要である。社会薬学は、こうした社会的側面から、薬にまつわる影響を理解してもらうとともに、社会の変化が巻き起こす新たな課題を抽出し、解決のためのモデルを構築、そのモデルを完成度の高いしくみに持ち上げる活動を通して成果を社会に問い、薬学と社会の回路を実効性のあるものにしたててゆくことを目標としている。

◆社会との接点で活動する、様々な専門家との連携

現在は、超高齢社会に必要な地域密着型薬剤師の養成プログラムや地域住民の健康保持や医療費削減のための地域薬局のヘルスマネジメント・プログラム、また、小中学校のための薬の正しい使い方（薬育プログラム）と連動した薬物防止教育などに携わっている。

これらのモデル活動は、実証実験を積み重ねて初めて具体化するものも多いため、薬学のみならず様々な専門家との連携が必要とされる。相互の主張や立場を尊重しあいながら、薬学の立場から、社会を豊かにするための活動を提案していきたいと考えている。

Information

発行しました!!

「JAPIC医療用・一般用医薬品集インストール版」2013年4月版

- ◇医療用および一般用医薬品の添付文書情報(2013年4月までのJAPIC入手分)を収録したWindows対応CD-ROM。
- ◇製品情報、医薬品集本文データの検索・表示・印刷・データ出力が可能。
- ◇薬価、規制区分、剤形、添加物、先発品等/後発品情報なども収録。
- ◇完全インストール仕様により、スピーディな検索・結果表示を実現!
- ◇単品で¥15,000(税込)。
年間セット4枚(4月・7月・10月・1月)で¥25,000(税込)。



「JAPIC OTC医薬品CD-ROM」2013年4月版

- ◇一般用医薬品(一部の医薬部外品含む)の添付文書記載情報(2013年3月までのJAPIC入手分)を収録したWindows対応CD-ROM。
- ◇一般用医薬品データの検索・表示・印刷・テキストデータ出力が可能。
- ◇検索項目は、成分名、添加物、リスク区分や小児に使える医薬品等。
- ◇インターネット経由で、添付文書PDFの表示が可能。
- ◇¥3,150(税込)/単回。

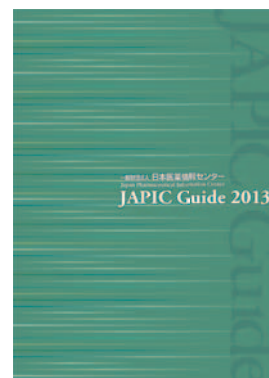


〔お問合せ先〕事務局 業務・渉外担当 (TEL:0120-181-276、FAX:0120-181-461)

JAPIC Guide 2013

2013年版を発行しました。本書はJAPICの事業活動を一覧でき、内容を簡単に把握できることを目的に毎年発行しております。JAPICの会員制度をはじめ、医薬品の安全性に関する情報提供業務、電子データ、医薬品情報データベース、JAPIC出版物・CD-ROMについてそれぞれの概要、特長、利用方法、料金などを掲載しております。また、附属図書館主要蔵書リストも掲載しております。JAPICのサービスや全体像を把握する際の参考資料としてご利用ください。ご希望の方には無料でお送りしますのでお申し込みください。

〔お問合せ先〕事務局 業務・渉外担当 (TEL:0120-181-276)



2013年版「医薬品製造承認品目一覧」

JAPICでは、厚生労働省から日本製薬団体連合会を通じて医薬品の製造承認資料を入手し、JAPICデータベース「SHOUNIN(ショウニン)」(更新月1回)でご提供しており、更に1年分をまとめて「医薬品製造承認品目一覧」(1986年創刊)を作成しております。

この度、厚生労働大臣の承認に係る医薬品(2012年1月から12月までの承認分)を掲載した2013年版を発行致しました。編集内容は、ご利用いただきやすいよう医療用、一般用別に、それぞれ商品名の五十音順で配列しております。

ご購入をご希望の方は、FAXにて下記宛にお申し込みください。

●会員 10,500円(税込) ●非会員 21,000円(税込)

[お問合せ先] 事務局 業務・渉外担当 (TEL:0120-181-276 FAX:0120-181-461)

承認品目全データの提供

承認品目、承認年月日、承認申請時の会社名がひと目でわかる医薬品の製造(輸入)承認データをご提供いたします。データは1931年～2012年12月までの82年間の医療用医薬品を対象としています。自社商品の承認情報の管理など、この機会に是非ご利用ください。

■データ形式 カンマ区切りテキストデータ(csv)

■価 格 会 員:31,500円(税込)

非会員:52,500円(税込)

[お問合せ先] 事務局 業務・渉外担当 (TEL:0120-181-276)

平成25年度JAPICユーザ会開催案内

平成25年度のJAPICユーザ会を下記の日程で開催します。

詳細は弊センターホームページのWhat's Newでご案内します。

☆平成25年6月18日(火) 13:00～17:00 東京 日本薬学会長井記念ホール

☆平成25年6月21日(金) 13:00～17:00 大阪 ブリーゼプラザ8F

「理事会」「評議員会」の概要報告

3月13日(水)に平成24年度第4回理事会、19日(火)に平成24年度第2回評議員会を開催いたしました。議題と主な内容は以下のとおりであり、すべて原案どおり承認・議決されました。

今回の主な議題でありました平成25年度事業計画・収支予算についても理事会において承認議決されましたので、会員の皆様にご参考にしていただくため、事業計画を先般ご送付いたしました。

○平成24年度第4回(通算第124回)理事会

3月13日(水) 16:00~17:40、当センター4階会議室

《議題》

1. 平成24年度事業報告及び収支状況報告について
2. 平成25年度事業計画について
3. 平成25年度収支予算について
4. 業務執行理事及び事務局長の選定について
5. 報告事項
(1) 維持会員の異動承認について

○平成24年度第2回(通算第33回)評議員会

3月19日(火) 16:00~17:15、当センター4階会議室

《議題》

1. 評議員の選任について
2. 理事の選任について
3. 報告事項
(1) 平成24年度事業報告及び収支状況報告について
(2) 平成25年度事業計画及び収支予算について

【評議員及び役員の異動】

《評議員》

退任: 遠藤 明 (前 一般財団法人医療情報システム開発センター 理事長)
: 佐藤 秀昭 (前 一般社団法人日本病院薬剤師会 副会長)
: 高橋 千代美 (日本製薬団体連合会 顧問)
: 藤井 善博 (前 アステラス製薬株式会社 営業本部DIセンター長)

以上 3月19日付

新任: 山本 隆一 (一般財団法人医療情報システム開発センター 理事長)
: 森田 雅之 (一般社団法人日本病院薬剤師会 副会長)
: 清水 健一郎 (日本製薬団体連合会 常務理事)
: 佐藤 直子 (アステラス製薬株式会社 営業本部DIセンター長)

以上 3月20日付

《理事》

退任: 会田 保俊 (第一三共株式会社 信頼性保証本部安全性情報部長)
: 古谷 泰治 (大日本住友製薬株式会社 常務執行役員信頼性保証本部長)
: 持田 秀男 (一般財団法人日本医薬情報センター理事(常勤)、事務局長)

以上 3月31日付

新任: 東條 俊明 (第一三共株式会社 執行役員信頼性保証本部長)
: 渡辺 晶子 (大日本住友製薬株式会社 ファーマコビジランス部長)
: 高見澤 博 (一般財団法人日本医薬情報センター理事(常勤)、事務局長)

以上 4月1日付

(※敬称略)

■ 平成25年度事業計画について

平成25年度事業計画について、3月13日(水)の理事会(第4回、通算第124回)および3月19日(火)の臨時評議員会(第2回、通算第33回)において、JAPIC事業計画(案)が討議され承認されましたので概要をお知らせします。

平成25年度は第四期中期三ヵ年計画の最終年になります。縮めの年として重点目標5施策の達成を目指すとともに、今年度は特に「医療機器会員の拡充および医療機器情報提供サービスの安定稼働」、ならびに「医薬品の安全性確保業務受託事業の強化」、および「医薬品情報総合検索システムの本稼働」を優先度の高い事業と位置づけ注力して遂行してまいります。

I. JAPICの現事業の充実・強化

1 現有のJAPICデータベースの計画的システム開発と改修

標準病名と対応させた「添付文書記載病名集」は2006年に我が国で初めて刊行したものである。同時に医療のIT化推進へ対応するためにデータベース化を行い、国立大学病院をはじめ多くの病院、診療所をご利用いただいている。毎年改訂作業を実施しているところであるが、本年度も専門家による査読を実施し、内容の充実を図る。

2 受託事業の充実

当センターは、平成5年(1993年)以来薬事法に基づく製薬企業の安全確保業務を支援するサービスを提供しているところであるが、特に委受託契約に基づく安全確保業務の委託要請が拡大していることを受けて、受託安全確保業務(GVP対応)の受託体制を強化した。

なお、安全確保業務として委受託契約締結可能なサービスは以下の通りである。

JAPIC-Q、JAPIC-QX、JAPIC-Q海外情報、JAPIC-Q医療機器情報、JDM、JDMエクストラ、感染症情報(JAPIC-Q Plus、JDM Plus、PubMed代行検索)、文献検索、JAPIC AERS

自己点検による定期的見直しおよび体系的教育研修の履行等により品質保証体制の維持・強化を継続し、顧客満足度の向上及び更なる顧客拡大に努める。

また、その他平成25年度より開始するサービスとして、生物由来製品に関する感染症情報については個別ユーザーのご要望に応じた感染症情報の受託事業(スクリーニング)およびJAPIC AERSサービス(副作用が疑われる症例報告に関する情報のデータベース解析)を予定している。

II. 新規事業の創生

1 JAPIC医薬品情報総合検索システムのリリース

JAPIC医薬品情報総合検索システムとは、JAPICが保有するデータベースを横断的に検索し、検索対象の医薬品に関連する情報を一画面に表示するシステムであり、平成25年10月のリリースに向けて開発中である。コンテンツとして、添付文書情報、医薬品基本情報、学会・文献情報をはじめ、JAPIC AERS、VAERS等を実装の予定である。

2 医療機器会員向け情報提供サービスの開始(国内外)

平成25年1月よりJAPIC-Q医療機器情報サービスとして月2回の情報提供を開始したところであるが、平成25年4月からは新たに医療機器企業対象の会員制度を設定し、医療機器会員向けにJAPIC-Q医療機器情報サービスおよびJDMサービスの国内外医療機器情報提供を行う。

3 海外文献学会カスタマイズ情報の提供

トムソン・ロイター社との提携が実現したことから、平成25年7月よりトムソン・ロイター社のCustom Information Services(CIS)のデータを用いて、ご指定の医薬品の情報を抽出し提供する新規サービスを開始する。現在、プラットフォーム構築等ユーザーへのサービス提供環境を整備中である。

III. 普及・広報活動の推進

更なるユーザー獲得をめざし、平成25年度の普及・広報活動の強化対象サービスは以下のとおりである。

JAPIC-Q医療機器情報サービス、受託安全確保業務(GVP対応)、JAPIC医薬品情報総合検索サービス、JAPIC-QXサービス、JAPIC AERSサービス(RMP対応等)および海外文献学会カスタマイズ情報サービス

IV. 事業の見直しおよび V. 運営基盤の強化

1 IT環境に関しては、事業継続性および法規制対応としてのコンピュータ化システムバリデーションの実施など、JAPIC内のIT環境の信頼性及び安全性の向上を図る。

2 人材育成とスキル向上の推進

3 会員の維持・確保、長期的財政の安定化

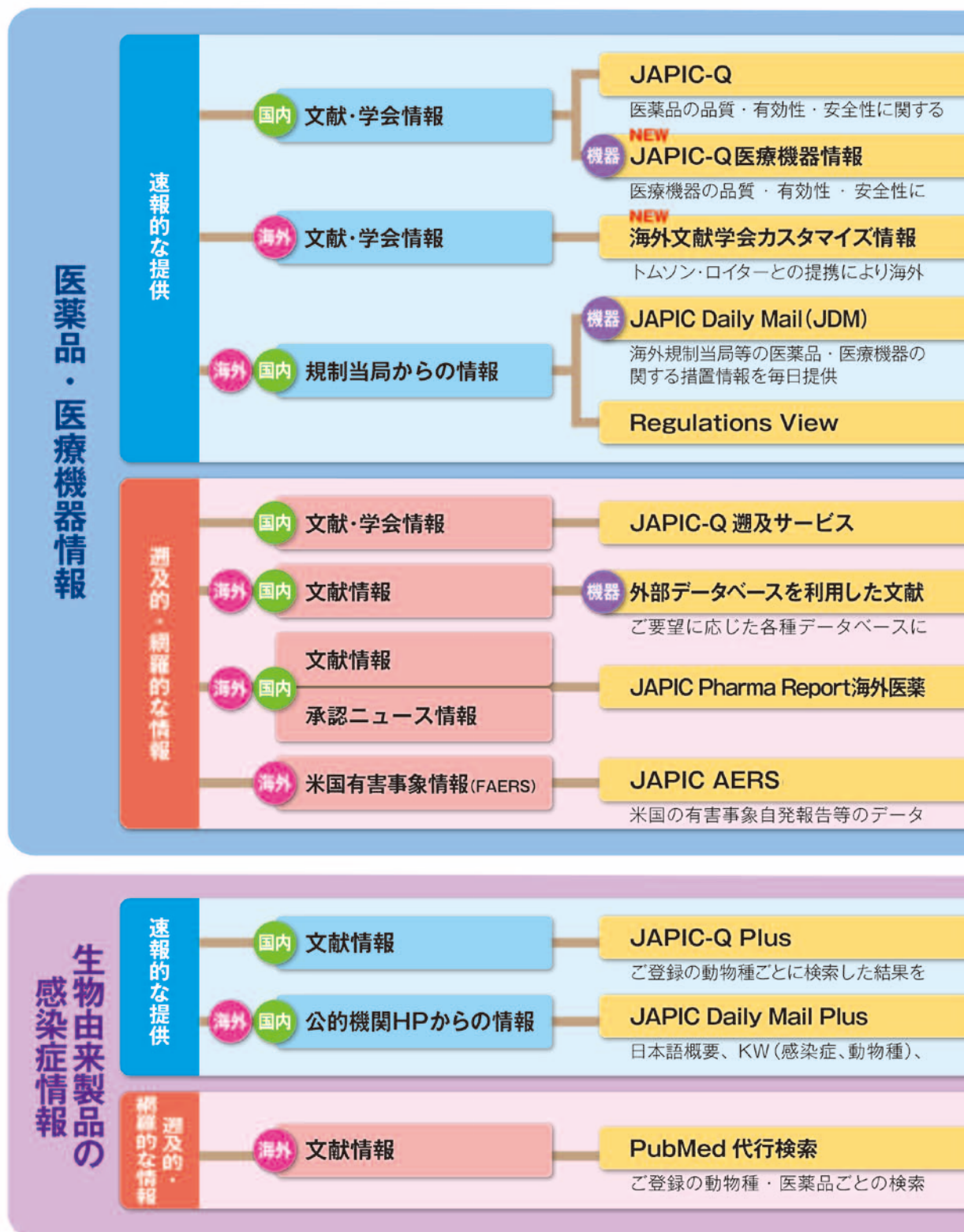
医薬品、医療機器等医療を取り巻く環境が大きく変動してきています。当センターは、医薬品等の情報提供の専門センターとして、これまで以上に皆様からの多様なご要望に応じた事業展開および運営を遂行して参ります。会員の皆様におかれましては平成25年度事業計画についてご理解とご助力を頂ければ幸いです。

(理事 後藤邦子)

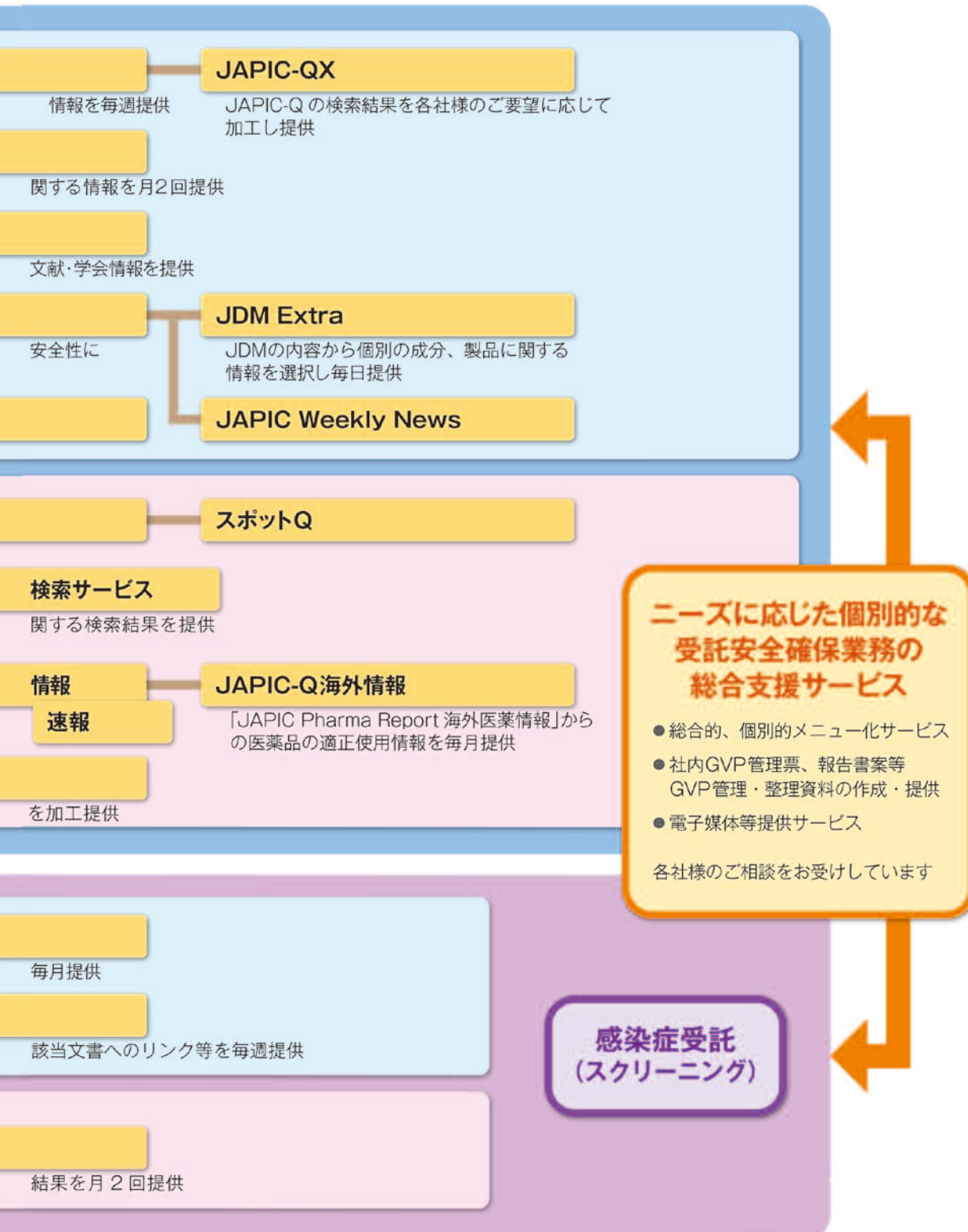
❖ JAPICサービスの紹介 ❖

医薬品等の適正使用に役立つ品質・有効

医薬文献・学会情報、国内外規制措置情報などの提供・支援(受託安全確保業務の総合支援サービス)



性・安全性に関する情報提供サービス



くすりの散歩道

NO.68

緑茶の予防医学

(一財)日本医薬情報センター 添付文書情報担当
深澤 ちさと(Fukazawa Chisato)



新年度が始まり、皆様心機一転してお仕事に励まれていることと思います。この号が皆様のお手元に届く頃には、新緑の季節、緑がまぶしく爽やかな季節が近づいていることでしょう。

新緑の季節の訪れに伴い、私が毎年楽しみにしているものがあります。新茶です。静岡生まれの私は、毎日緑茶（もちろん急須で入れたお茶です）を飲むことが、静岡を離れた今も習慣となっています。「茶殻の処理が面倒くさくないの?」とよく聞かれますが、そんなことはお構いなし。朝起きて一番にすることが緑茶を入れることであり、これを飲まない一日のリズムが整いません。そんな私にとって、新茶は特別なもの。普段入れる緑茶は渋みが強いように感じられますが、新茶は渋みより甘みが強く、さらに口当たりがまるやかで、そんなお茶の風味の違いを味わうのもまた楽しいものです。毎年5月の初旬に実家から新茶が届くのですが、今年もそれを今か今かと待ち遠しく過ごす今日この頃です。

さて、私にとっては毎日の「元氣注入剤」のような存在の緑茶ですが、「本当に“薬”になるのでは?」と思われる機能を備えているのを皆様はご存知でしょうか?

一番身近な例としては、抗菌作用が挙げられます。緑茶成分の一つ、カテキンの抗菌作用を利用したデオドラントや洗剤を最近よく見かけますね。次に思い浮かぶのは、風邪やインフルエンザの予防効果です。小学生の頃、インフルエンザが流行り出す季節になると、緑茶を水筒に入れて学校に持ってくるのが強いられました。「外から帰ったら、必ずお茶でうがいをする!」と教えられ、皆で水道場に緑茶を片手に並んだのを覚えています。緑茶は抗ウイルス作用、および免疫力を高める作用を持つ可能性が示唆されており、これらの相加効果によってインフルエンザが予防できるのかも知れません。

この他にも、緑茶について調べると、高血圧予防、血糖値上昇抑制、成人病予防・・・などなど、実に沢山の効果が期待されていることが分かりました。その中でも、私が特に興味を惹かれた報告についてお話したいと思います。

日本の死因の第一位は悪性新生物（がん）であることは皆様もご存知でしょう。しかし、静岡県のがん標準化死亡比（以下SMRと省略します）を全国平均と比較すると、男女とも低いことが分かります。静岡＝緑茶の産地、静岡県におけるがん死亡率は緑茶と何か関係があるのでは?! このような発想か

ら、緑茶のがん予防効果について検討している報告を見つけました。

静岡県立大学短大部教授 小國伊太郎氏は静岡県におけるSMRが全国平均よりも低いことに着目し、さらに詳細を調べるため、静岡県下75市町村別に1969～1983年（15年間）におけるSMRを算出し、「がん死亡分布図」を作成しました。その結果、大変興味深いことに、各市町村におけるSMRとそこにおける緑茶の生産量との間には、負の相関が認められました。つまり、静岡県内において緑茶の生産が盛んな地域ほど、がんによる死亡率が低いことが分かったのです。特に、緑茶生産地として有名な中川根町では、胃がんSMR（男性）が全国値の約1/5であることが当時の結果から得られています。

日本人が胃がんを発症する主な原因の一つとして、ピロリ菌が挙げられます。小國氏は緑茶のピロリ菌に対する抗菌作用についても検討を行っています。緑茶から抽出・精製したカテキンを用いてピロリ菌（標準株および臨床分離株）に対する増殖抑制効果を検討した結果、緑茶から抽出したカテキンは標準株および臨床分離株それぞれに対し、約50～200 $\mu\text{g}/\text{ml}$ の濃度で抗菌作用を示す結果が得られました。（一方、通常私たちが飲むやや濃い目の緑茶に含まれるカテキンの濃度はおよそ1000 $\mu\text{g}/\text{ml}$ です。なお、以上の報告は静岡県立大学短期大学部HP上に掲載されている、研究紀要第14-1号2000年度、著者：小國伊太郎、「緑茶の機能性～がん予防機能を中心に～」を参照にさせていただきます。）

ここまで、緑茶に備わる機能について色々と話して参りましたが、これらの詳細な作用機序については不明な点も多く、あくまでも可能性が示唆されているだけの機能もあります。今後研究が続けられ、それらの詳細が明らかになり、さらに新しい機能が発見されるとすれば、緑茶愛好家の私としては嬉しい限りです。

「本当に“薬”になるのでは?」と前述いたしました。現時点において緑茶は病を治す機能を持つのではなく、病を予防する機能を備えており「薬」とは異なります。とはいえ、普段からおおいしく且つ楽しく病気を予防できるというのは、私たちにとってありがたいことですね。

「八十八夜に摘み取られた新茶を飲むと一年間無病息災で過ごせる」という言い伝えがあります。皆さんも（ぜひ静岡産の）新茶を飲んで、今年一年を元気に過ごしましょう!

JAPIC新入職員紹介



理事兼事務局長
高見澤 博
(Takamisawa Hiroshi)

4月1日に理事兼事務局長に就任いたしました高見澤博です。

私は、2年前の平成23年6月に国立医薬品食品衛生研究所総務部を最後に32年間勤めた厚生労働省を退職し、同年8月から先月31日まで一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団に勤務していました。

これまでの30数年間、医薬品・医療機器業界の皆様と楽しく仕事をさせていただきました。特に、平成元年度から2年度、旧医薬品機構が実施した先端技術を活用した研究開発を支援する出融資事業では、出資された製薬企業の方々と新会社を設立したこと。平成10年度から12年度、配置薬業界の方々と中小企業近代化計画を実施したこと。医療事故対策の設備投資のための低利融資制度を新設したこと。平成15年度、PMDA設立に向けた各種許認可申請手数料について、各関係団体の方々と打ち合わせ改定したことなど思い出します。

この他、厚生省在職中に担当した医薬品・医療機器等の許認可事務、厚生大臣表彰や叙勲等の表彰、輸入にかかる薬監証明、薬事工業生産動態統計調査のフロッピーディスクによる届出、PMDAに提出する申請様式の整備などの業務を通じ、業界の皆様大変お世話になりました。

また、医薬品・医療機器関係事業を円滑に進めるためには、業界の皆様からのご支援やご協力が必要不可欠であり、ニーズの把握が重要であることなどをお教えいただきました。

JAPICでは、総務・経理及び業務・渉外を担当します。会員の皆様や業界の皆様と積極的にコミュニケーションを図り、皆様のご期待に応えられるサービスを構築するよう精一杯努めて参りますので、ご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



業務・渉外担当
小林 英夫
(Kobayashi Hideo)

製薬会社を定年退職し、しばらく薬剤師向け情報誌のお手伝いをさせていただいておりましたが、この度、縁ありましてJAPICの業務・渉外でお世話になることになりました。

JAPICとは2007年から3年ほど、会社からの指示で理事を仰せつかり、理事会や事業委員会に出席させていただき、自分なりに感じました意見を申し上げていました。しかし今考えますとJAPICの事業の全容を把握していない中で、はなはだ勝手な事を申し上げていたのではないかと赤面の思いでございます。

当時と現在ではJAPICを取り巻く事業環境は大きく変化しており、医薬品・医療機器の安全性に関する情報の要求はますます高度化、グローバル化しております。

また事業の競合関係を見ますとJAPICが行っていますサービスに新たに参入する企業も出ており、今後JAPICは生き残りのために、時代に対応した顧客サービスを創造してゆく必要性を感じております。

そうした状況で自分に何ができるのかを自問し活動をしてゆきたいと考えております。

JAPIC Guideを見ますとJAPICがいかに多くの公益事業を展開しているかが解ります。医薬情報データベース (iyakuSearch) の一般公開、出版物の薬学生への無料配布、図書館の一般公開等々、そのほか情報提供を通じて国民の健康、医療の向上に寄与するために、採算ベースに合わない多くの公益事業を展開している事に気づきました。

ここで感じますのは、維持会員、賛助会員はじめ多くのステークホルダーの皆様を支えられて、これら公益事業が成り立っているという感謝の気持ちでございます。

こうした皆様の思いに少しでもお応えすべく、微力ですが貢献してまいりたいと思います。

JAPIC新入職員紹介



経理担当
石川 晶子
(Ishikawa Shoko)

4月に入社いたしました石川晶子です。明治大学経営学部出身で、大学時代は財務会計学のゼミに所属し、会計基準についてまとめたり財務諸表を分析していました。

就職活動を通して人の命に関わる仕事の尊さを改めて実感し、医薬品情報を扱うJAPICで働きたいと考えるようになりました。希望が叶い、文系出身なので間接的にはありますが、人々の健康に貢献できることを大変嬉しく思っております。

音楽が好きで、聴くことはもちろん、上手くはないのですが楽器も弾きます。お琴やパーカッションなどを習っていました。また、旅行も好きで、これまで国内や海外の色々なところに行きました。特に良かったのはヨーロッパで、なかでもスイスのアルプスと氷河湖はとて綺麗で感動しました。これからも時間を作ってまだ行ったことのないところに行ってみたいと思っています。

まだまだわからないことだらけですが、一生懸命仕事を覚えて1日でも早くJAPICや皆さんのお役に立てるようになりたいと思っていますので、よろしく願いいたします。



業務・渉外担当
村田 晃
(Murata Akira)

4月にJAPIC事務局業務・渉外担当に配属となりました村田晃です。

出身は青山学院経営学部で、日本やアメリカの会計と国際会計での減損損失の認識の違いについて研究していました。

私の趣味はスポーツ観戦です。一流の選手同士が、力の限り戦っている姿には感動させられます。最近特に好きなのが、アメリカンフットボールです。アメリカンフットボールは、足が速い人や屈強な体の人などが個々の能力を生かして、活躍するスポーツです。各自の特技を上手に組み合わせなければ勝利が手に入りません。この点は、会社運営を成功させることに似ていると思います。

私は今まで、薬学とは無縁のことを学んできました。しかし会計学については深く学んできました。私は、私に備わっている能力を発揮し、ほかの方々の力と合わせてJAPICをより良くできたらと思います。至らない点が多いと思いますが、多くの経験を通して力を蓄えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



医薬文献情報担当(国内)
伊東 弘晃
(Ito Hiroaki)

2013年4月に入社致しました伊東弘晃です。

出身は東北大学大学院薬学研究科です。研究室ではPositron Emission Tomography (PET) に用いられる放射性薬剤の合成と生物学的評価を行っていました。研究活動を通し、実験技術に加え、英字論文の読解法や問題の解決法、物事への取組方についても学びました。

趣味は喘息の改善のために小学生のころから行っていた水泳で、最近では週1回程度の頻度で泳いでいます。また、駅前にスーパーがあることから料理も始めました。まだ料理も始めたてで簡単な料理しか作れませんが、次第に凝った料理も作れるようにしていき、節約と減量に努めていきたいと思っています。

新社会人としてまだまだ周りにご迷惑をかけることも多いですが、出来るだけ早く戦力になるよう頑張りますので、ご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。



医薬文献情報担当 (国内)
山田 耕司
(Yamada Koji)

2013年4月に入社致しました山田耕司です。京都大学薬学部薬科学科にて薬学を学び、研究では低分子量Gタンパク質の一種であるR-Rasの阻害が、胎児マウスの神経細胞マイグレーションに及ぼす影響を調べておりました。JAPICでは薬について必要とされる情報を広く提供し、皆様のお役に立てるような仕事をしていきたいと思っています。配属は医薬文献情報担当(国内)となりまして、日々発信される国内最先端の文献を、丁寧でわかりやすい形にして皆様のお手元に届けられるよう努めて参りたいと思います。大学時代からテニスをやっており、週末にはテニスで体を動かしてリフレッシュできればと考えております。どうぞよろしくお願い致します。



医薬文献情報担当 (海外)
鳥田 泰
(Torita Yutaka)

3月に大学院修士課程を修了し、4月よりJAPICでお世話になることになりました、鳥田泰と申します。JAPICにて医薬文献情報担当(海外)として業務に従事することは、世界中の医薬品の情報を価値のあるものとして提供することにつながり、事業の可能性とやりがいを感じます。右も左も分からない新社会人ではありますが、先輩方、上司の方々にご指導いただきながら、まずは仕事に慣れること、小さな成果を実感することを自身の目標として日々大切に勉強しております。

最近のマイブームは過去に読んだ本を読み返すことです。比較的硬めの文章や、音楽を題材にしたものが好きです。ジャンル問わずオススメの本がありましたら、是非とも鳥田までお願いします! ご紹介くださった本は必ず感想書きます(笑)。

まだまだ至らない点など多々ございますが、自己研鑽に励んでまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



図書館部門
平山 陽菜
(Hirayama Haruna)

一言に図書館といっても、公共図書館や大学図書館など、種類によって成り立ちも仕組みも大きく異なります。JAPICの附属図書館は著作権法上の指定を受け公の図書館と並ぶ機能を持ちながら、JAPIC業務の根幹を支え、かつコレクションも希少であるなど、その存在は他に類をみません。やりがいあふれるワンパーソンライブラリーであり、魅力たっぷりのJAPIC附属図書館に出会い、ここで働くことができるのをとても幸せに思っています。

というように、図書館フリークで図書館の勉強をするために上京し、図書館情報大学の後身である筑波大学 知識情報・図書館学類、及び図書館情報メディア研究科で図書館情報学を学びました。研究対象は公共図書館でしたが、これからは専門図書館や医療情報、薬学についても知識を深めたいです。

趣味は高校から始めたヴァイオリンで、オーケストラに参加しています。おいしいご飯を食べるのも好きですが、特に刺身などの生魚が好物で、いつか魚のおいしい日本海に遊びに行ったらふく食べるのが夢です。新社会人として至らぬ点が多々あると思いますが、どうかよろしくお願い致します。

外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より — (抜粋)

2013年3月1日～3月29日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No.392-396)の記事から抜粋

■米FDA

- azithromycin (Zithromax, Zmax) のDrug Safety Communication: 致死的なおそれのある不整脈リスクについて
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm343350.htm>>
- 2型糖尿病に対するインクレチン・ミメティック薬: 膵炎および膵臓の前癌期所見のリスク増加の可能性に関するEarly Communication
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm343805.htm>>

■EU・EMA

- European Medicines Agency, cilostazol含有医薬品の使用制限を勧告: レビューの結果、ベネフィットは小さく、限られた患者サブグループでのみリスク(心臓の副作用・重篤な出血)を上回る
<http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Referrals_document/Cilostazol_31/WC500140675.pdf>
- European Medicines Agency, GLP-1ベースの2型糖尿病治療薬(インクレチン・ミメティック薬)による膵臓リスク(膵炎および前癌期細胞変化)に関する研究結果について調査
<http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Press_release/2013/03/WC500140866.pdf>

■Health Canada

- SAMSCA (tolvaptan): 肝障害リスクに関する新たな警告について
<<http://www.healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2013/23671a-eng.php>>
- INCIVEK (telaprevir) 併用療法(peginterferon alfaおよびribavirin)による重篤な皮膚反応(中毒性表皮壊死融解症、スティーブンス・ジョンソン症候群など)の報告
<<http://www.healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2013/23481a-eng.php>>
- RITUXAN (rituximab) と中毒性表皮壊死融解症(TEN)およびスティーブンス・ジョンソン症候群(SJS)との関連性
<<http://www.healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2013/23231a-eng.php>>
- Health Canadaは小児におけるSensipar (cinacalcet)の使用に対して警告: 米国の臨床試験に参加した小児が死亡したことを受けて
<<http://healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2013/25849a-eng.php>>

■スウェーデン MPA

- スウェーデンの研究で、小児および思春期におけるパンデミックワクチンPandemrix接種後のナルコレプシーのリスク増加が確認され、若年成人におけるリスク増加が示される
<<http://www.lakemedelsverket.se/english/All-news/>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報(海外)担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料)もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料)のサービスをご利用ください(JAPICホームページのサービス紹介:<<http://www.japic.or.jp/service/>>参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供を御希望の医療機関・大学の方は、事務局業務・渉外担当(TEL 0120-181-276)までご連絡ください。

【新着資料案内 平成25年3月2日～平成25年4月8日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越し下さい。

〈配列は書名のアルファベット順、五十音順〉

書名	著編者	出版者	出版年月
Arzneimittel-Kompendium der Schweiz 2013	Ulrich Schaefer et al	Documed AG	2012年9月
Austria-codex fachinformation 2012/2013	*	Osterreichische Apotheker-Verlags	2012年10月
British National Formulary No.65	Rachel S.M. Ryan	BMJ Publishing Group	2013年
FDAの正体～(上) レギュラトリーサイエンスの政治学	フラン・ホーソン著、栗原千絵子、斉尾武郎 監訳	篠原出版新社	2011年5月
FDAの正体(下) レギュラトリーサイエンスの社会学	フラン・ホーソン著、栗原千絵子、斉尾武郎 監訳	篠原出版新社	2012年12月
GAMP 5 コンピュータ化システムのGxP適合へのリスクベースアプローチ	ISPE	ISPE日本本部	2008年12月
MIMS TAIWN 台湾薬品手冊 43rd Edition 2011 2nd Issue 2011	Leong Wai Fun	UBM Medica Pacific Ltd	2011年
ViDAL 2013 Le Dictionnaire 89ed		Vidal	2013年
一般用医薬品添付文書記載要領ガイドブック 改訂版		薬事日報社	2013年1月
医薬品・医薬部外品製造販売業者等におけるコンピュータ化システム適正管理ガイドライン入門～よくわかるCSV～第2版	蛭田 修、大槻宣道 著	じほう	2012年10月
医薬品・医薬部外品製造販売業者等におけるコンピュータ化システム適正管理ガイドライン解説 改訂	日本製薬団体連合会品質委員会 編	じほう	2012年4月
JAPIC医療用医薬品集 普及新版 2013	一般財団法人日本医薬情報センター 編集	一般財団法人日本医薬情報センター	2013年3月
日本の医薬品構造式集 2013	一般財団法人日本医薬情報センター 編	一般財団法人日本医薬情報センター	2013年4月
日本造血細胞移植学会平成24年度全国調査報告書	日本造血細胞移植学会 データセンター	日本造血細胞移植学会 データセンター	2013年2月
ポケット版 臨床医薬品集2013	星 恵子 編	薬事日報社	2013年1月
ポケット医薬品集 2013年版	龍原 徹、澤田康文	白文舎	2013年1月
薬剤識別コード事典平成25年改訂版 改訂第36版	医薬ジャーナル社集部 編	医薬ジャーナル社	2013年2月

情報提供一覧

【平成25年4月1日～4月30日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせ下さい。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free	http://database.japic.or.jp/
1. [JAPIC Pharma Report-海外医薬情報]	4月5日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. [添付文書入手一覧] 2013年3月分 (HP定期更新情報掲載)	4月1日	2. 学会演題情報	月 1 回
3. [JAPIC NEWS] No.349 5月号	4月26日	3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
4. [医薬品製造承認品目一覧]	4月30日	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
5. [JAPIC医療用・一般用医薬品集インストール版 (CD-ROM)]	4月30日	5. 臨床試験情報	随 時
6. [JAPIC OTC医薬品CD-ROM]	4月30日	6. 日本の新薬	随 時
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (FAX、郵送、電子メール等で提供)		7. 学会開催情報	月 2 回
1. [JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報] No.876-879 (旧: 医薬関連情報速報FAXサービス)	毎 週	8. 医薬品類似名称検索	随 時
2. [医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)]	毎 週	9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
3. [JAPIC-Q Plusサービス]	毎月第一水曜日	〈iyakuSearchPlus〉	http://database.japic.or.jp/nw/index
4. [外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)] No.2889-2909	毎 日	1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
5. [JAPIC Weekly News] No.396-399	毎週木曜日	2. 学会演題情報プラス	月 1 回
6. [Regulations View Web版] No.260-261	4月12日・26日	3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日
7. [感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)] No.486-490	毎週月曜日	4. Regulations View DB (要:ID/PW)	月 2 回
8. [PubMed代行検索サービス]	毎月第一・三水曜日	外部機関から提供しているJAPICデータベース	
9. [JAPIC医療用医薬品集2013] 更新情報2013年4月版	4月30日	〈JIP e-infoStreamから提供〉	https://e-infostream.com/
		〈株式会社ジー・サーチJDreamⅢから提供〉	http://jdream3.com

医療用医薬品集

普及新版2013

2013年
3月発行



価格：**5,040**円(税込)

A5判／約1,600頁

本書は「JAPIC医療用医薬品集(B5判 約3,400頁)」をもとに臨床の場で利用される際に必要な項目を選択し、取り扱いやすく、持ち運びに便利なハンディサイズ(A5判)に編集したものです。

成分ごとに添付文書記載の効能・効果、用法・用量、禁忌、警告、使用上の注意等、及び半減期情報等を記載。

約2,100成分、約19,000製品の医療用医薬品情報を2013年1月時点の最新情報で収録。

■掲載内容

- ◎一般名、製品名
- ◎承認日(一部製品)
- ◎組成(規格)
- ◎効能・効果、用法・用量
- ◎警告
- ◎禁忌、原則禁忌
- ◎慎重投与
- ◎重要な基本的注意
- ◎相互作用(併用禁忌・併用注意)
- ◎副作用
- ◎高齢者への投与
- ◎妊婦・産婦・授乳婦等
- ◎小児への投与
- ◎臨床検査結果に及ぼす影響
- ◎半減期

一般財団法人 日本医薬情報センター **JAPIC** 編集・発行 ☎ 0120-181-276
丸善出版株式会社 発売 TEL 03-6367-6038

上記書籍の他、電子カルテやオーダリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。

Garden

ガーデン

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

じゃがいも

学名: *Solanum tuberosum* L. なす科なす属。原産地は南米アンデス山脈。日本に渡来したのは江戸時代。花期は5月から6月。生食用、加工用、デンプン原料に利用。ポテトグリコアルカロイド(PGA)と総称される有毒なアルカロイド(α -ソラニンや α -チャコニンなど)を含有。発芽した芽や緑色を帯びた皮に多く含有。小学校で栽培したジャガイモを皮付きのまま茹で皮付きのまま食べて中毒した例がある。(hy)



JAPICホームページより
<http://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。